富山県総合計画審議会　第２回活力部会　議事要旨

１　日時：平成29年４月25日（火）10：00～12：00

２　場所：富山県民会館３階　304号室

３　出席委員（五十音順）
高木部会長、川村副部会長、石澤委員、伊藤委員、庵委員、梅田委員、小川委員、尾山委員、中井委員、横井委員
朝日専門委員、石倉専門委員、大谷専門委員、川合専門委員、杉野専門委員、玉沖専門委員、能作専門委員、町野専門委員、松田専門委員、政所専門委員、宮越専門委員、山本専門委員、渡邉専門委員

４　議事
（１）新総合計画の政策骨子案（活力）について
（２）意見交換

５　発言要旨
（１）知事挨拶
本日、富山県総合計画審議会の第２回目の活力部会を開催しましたところ、委員の皆様には大変お忙しい中ご出席賜りまして、まことにありがとうございます。
今回の総合計画の見直しにつきましては、昨年12月に第１回の全体の審議会を開催しまして、新たな計画について諮問させていただき、また１月下旬から活力、未来、安心の３つの部会と全体の取りまとめを行います総合部会を開催しまして、それぞれご意見を賜っております。
また、今回は新たな試みとして、総合部会のもとに青年委員会を設けまして、これまで２回の会議を開いて、若い人たちの活発なご意見をいただいたところです。
これから、さらに各論について議論していただくわけですけれども、この活力部会が扱う分野は、ご承知のとおり、産業、雇用、観光、まちづくり、交通基盤、インフラといったようなことで、産業、経済あるいは地域の活性化を図る上で重要なものばかりでございます。今日も活発なご議論をよろしくお願いしたいと思います。
本日は、これまでの審議会や各部会の検討結果も踏まえまして、活力部分の政策骨子案を提示させていただいております。
これには、これまでのご議論、ご意見、また、昨年の秋につくりました「経済・文化長期ビジョン」、あるいは私の昨年10月の政策集、またさかのぼりますと、一昨年の秋につくりました「とやま未来創生戦略」、こうしたものを参考にして盛り込ませていただいております。
新幹線が開業して２年と１か月余りたって、間違いなく富山県は新しいステージに立っていると思います。また、世界も、トランプ大統領の登場をはじめとして、大きく揺れ動いているわけであります。こうした中での今後10年間の富山県の将来像、進むべき道をぜひ委員の皆様にはしっかりお示しいただき、議論していただければありがたいと思います。
よろしくお願いします。

（２）資料説明（事務局より）　省略

（３）意見交換

【髙木部会長】

今ほどの説明の資料について、皆さんのご意見を賜りたいと思います。

特に、これから10年間を見据えて、各政策の政策目標の基本的な考え方や方向性がこれでよいか、あるいは各政策の取組みの基本方向や施策がこれでよいか、というようなことについてご意見を賜りたいと思います。

ある新聞の記事によりますと、10年たてば今の仕事のほぼ半分がＡＩに代わられるという話もある中で、ぜひ忌憚のないご意見を賜りたいと思います。

それでは、項目数が多くございますので、４項目ずつ区切ってご意見を賜りたいと思います。

まず、「グローバル競争を勝ち抜く力強い産業の育成と雇用の確保」の政策番号が１番から10番につきましてご意見を賜りたいと思います。

どの政策でも結構でございますが、どなたかございますか。

【庵委員】

・　私は、この政策については全て網羅されているというふうに前回から思っておりまして、特段意見はなくて、逆に言うと、銀行協会として、この裏方をどういう形で支えていく、10年間を展望するかといったところが私どもの業界の使命だなというふうに思っています。

　既に地方創生であるとか起業の促進であるとか、または強い産業へのいろいろなサポートであるとか販路拡大といったことに取り組んでおりまして、まだ抜けている点があれば、またこの機会にいろいろと教えていただきたいというふうに思っています。

【梅田委員】

・　全て本当に網羅されていて、言うことがあまりないので、何かお役に立てないんじゃないかと思うほどなので。今のところ、ああ、なるほど、なるほどと。このままでいったらというよりも、私自身が今感じていることだけですと、本当にきのう見ても、数日見ても、富山にいるのが何て幸せなんだろうと思うくらい、天候とかそういうものが、日本の中で一番恵まれていて、山を見ても本当にスイスだわ、といった気分を味わえるし、そういう意味で、富山ってすばらしいなと最近実感しておりますので、こういうふうにきちっと知事の思いが伝わって、このような10年後の姿というのをとてもうれしく思っております。

【大谷専門委員】

・　まず、この政策と政策目標については、今ほど話がありましたように、全体を網羅していると認識しています。

　ただ、この中で、ものづくりの団体として要望したいことは、活力５に入っている「企業誘致」について、成長産業はそのとおりなんでしょうけれども、我々の立場としては、ものづくり基盤の裾野が広がるような企業誘致というのもこの中に加えていただきた

いと考えます。まず我々の持っているものづくりの特徴と強みがあって、この基盤を強化しながら将来の成長産業への基盤づくりが必要と認識しており、10年後に向けて今の現実と将来に向けての考えがキッチリ整理されると更に良くなると考えてます。

・　また、活力６の「中小・小規模企業の支援体制の強化」では、既に、この中に盛り込まれていると理解はしているんですけれども、これから先10年を考えますと、このものづくりを支える、特に小規模企業の事業承継というのが大きな課題になってくると思います。この事業承継が安定して行われないと、持続的なものづくりの強化につながらないものですから、ぜひ事業承継についても、あえて課題として明記し、取り入れていただくと、今の実態に合った対応になっていくのではないかということで、この点もお願いしたいと思います。

【杉野専門委員】

・　こちらへ来る前と、それから第１回目の会合の内容について私なりに調べてみたんですが、アメリカのカリフォルニア州にシリコンバレーというのがございます。サンマティオからサンノゼぐらいの間の約18キロの地域でございますが、ここで有名なウィリアム・ショックレーが微電流を使ったトランジスタを考え出しました。今から18年から20年ぐらい前は４、５社しかなかったと思います。私、去年行きまして発展ぶりを見てびっくりしました。

　あそこは北緯36か37度、富山も36か37度だと思います。カリフォルニアは非常にいい気候に囲まれて、すばらしいところです。あそこに大学が２つ、３つございます。企業としてはインテルとかフェアチャイルド、あるいはヒューレット・パッカード、電子部品、ＩＴ関係の有名企業はほとんどあそこに集まっております。わずか20年ぐらいで、世界の頭脳が集まる燃える町になりました。

　シリコンバレーに匹敵する大きさはちょっと無理だと思いますが、もう少し小型でも小振りでもいいんですけど、そういうものを富山にも持ってこられないか。あそこの小型版でもいいから実現できたらいいなと思っていたんです。近々、北陸経済連合会で行きますが、ぜひ、どういう経緯でシリコンバレーが発展してこれたかということをよく見てくればいかがかと思います。スタンフォード大学や他にもいろんなキャンパスがたくさんございますが、富山にも富山大学あるいは県立大学等々、立派な学校がございます。これらの大学ともっとうまく組んでやっていけば非常にすばらしい町、大きくする必要はないんですが、小型で、小振りで、しかし世界にきらっと光るような町に私はできると思います。しばらく時間はかかると思いますが、そういうものを希望しております。

　そうしますと、まず大学の卒業生の定着率がもっと上がると思います。それから、外部からも人が来ます。いろんな面で、ますますすばらしいきらっと光る活気のある富山県になるなと思います。そのためには相当努力しなきゃいかんでしょうが、我々も頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

【髙木部会長】

・　実は富山商工会議所も去年行ってまいりまして、北陸経済連合会は同じコースを今年行く。やっぱりスタートアップ企業の支援のからくりがうまくいっていまして、株式会社、商工会議所みたいなものがあそこにあるんですよね。そこからウーバーとかいろい

ろ出てきているので、そういうことについても、今準備しておりますので、そのうちに発表したいと思います。

【町野専門委員】

・　ナノテクと航空機産業に関して、ここ10年間、これはもう全く県の施策がぴったり当たっているなという感じを受けて、目に見えるようになってきた。ただ、現場ではまだ経済的に合わないと言っています。だけど、多分あと10年たつと、相当富山県のナノファイバーなんかを中心とするナノテクと航空機産業は物になっていくんじゃないかなというふうに思います。

　一面、ロボットというのが上がっているわけですが、せっかく富山県に世界に冠たるロボットの大企業があるのに、いまいちその辺が不足かなというところで、どうしたらいいかなと私も考えているんですが、その辺の県の動きもぜひお願いしたいなというふうに思います。

・　それと、昨年、１つの成功例として、「機械要素技術展」に二十数社出展させていただいて、石井知事も現場まで行かれて、非常に力を入れてやっていただいたのが非常にうまくいった例なんですが、そのうまくいった例の要素をちょっと考えてみると、１つは、若手を中心に展示会の企画運営をやったというのが１つ。もう１つは、展示会に出展するに当たって、その二十数社の経営者が集まっていろいろ話し合いを、何回も会合を開いて、どうやって自分のところの商品をまたは富山県の商品を売り込もうということを何回もやった。そういうことが展示会で成功して、今年も出展させていただくことになっているわけでございますけど、ほかのところもそういう若手、それから、何回も意見を聞く場を設ける、そういうやり方をぜひまた踏襲していただければ非常にうまくいくんじゃないかなと。

　項目はとにかく、先ほどからたくさん出ておりますように全部載っていますので、あとは、一つ一つをどうやってやるかというところに来ていると思いますので、ぜひその辺のところでしっかりやっていけばというふうに思っております。

【宮越専門委員】

・　政策体系や展開目標については、皆さん言われたとおりにしっかり網羅されているんじゃないかなというふうに思っています。

　取組みの基本方向の関係であえて一言言わせていただきますと、活力10との関係もあったと思いますが、人手不足克服のための労働生産性向上ということであります。先ほど委員からありましたように、事業の継承ということも含めて、多くの現場では、技術継承そのものも大分困難になってきているというふうに思っています。

　そういう意味で言えば、産業構造を支える人材強化の観点からも、今現在、富山県と国との連携でやっております「とやまシニア専門人材バンク」は、長年培った知識や技術、経験等を生かして新たな就労機会を設ける、結構成功例の部分ではないかなと、こんなふうに思っていますので、１つは、雇用の確保、技術継承、そして事業継承という意味で言えば、今ほど申し上げた「とやまシニア専門人材バンク」というもののさらなる活用も必要だというふうに思います。

・　さらには、雇用確保だけではなくて、実際に産業革命を支えるスキルアップ、スキル向上のための人材育成、そしてそれらを支える教育システムの構築も必要になってくる

のではないかなと、こんなふうに思っています。

・　労働生産性の向上については、先ほどの委員からあったように、実際どうやって動くかということになるだろうというふうに思っています。具体的に何をつくるのか、何が売れるのか、そして売れる構造にあるのかないのかということについても今後の大きな課題になっていくんだろうというふうに思います。そういう意味では、市場調査を含めた、そんなような支援もぜひお願いしたいなと思っています。

　国内だけのパイを奪い合うような施策ではなくて、できれば海外にも発信できるような、そんな案件に軸足を置いていただけると大変ありがたいなと思っています。

【髙木部会長】

　それでは次に、「生産性・付加価値の高い農林水産業の振興」の政策番号が11番から15番までについてご意見を賜りたいと思います。

【朝日専門委員】

・　農業の取組みの基本方向は、このままでいいと思います。稲作を中心としながらも野菜の生産拡大に努めていく。稲作もコシヒカリばかりでなく、新品種「富富富」の普及や外食産業との契約栽培などで品種のバランスを見直し、売れる米作りをめざして、農家の所得向上をめざしてほしいと思います。

・　あと心配な点は、集落営農に従事している人達の年齢が高齢化している事です。後継者育成に力を注いでほしいと思います。

【石倉専門委員】

・　全体的に非常に網羅されているというようなお話がほかの委員からもありました。

　特に農業という分野、金融機関の立場からすると若干離れた分野ではあるんですけれども、非常に日本的な取組みが多い中で、産業化みたいなところについて、ＡＩとかＩｏＴとかそこら辺についてすごい言及されていますけれども、ここら辺について非常に私としては関心を持っております。

　ぜひ、もともとある工業とかとの融合みたいなところで、もう少し富山としての工業と農業が一体となっての生産性の向上みたいなものに結びつくような、いわゆる高度化みたいなところをもっと工夫してはいかがでしょうか。また、その点を外部にもっと強調できると良いと感想として持っているところです。

【伊藤委員】

・　農業関連といいますと活力11、12、13ですが、大体たてつけとすると、これでいいんじゃないかなというふうに思います。

　活力11においては、人と政策基盤、そして活力12は中身をどうするんだと。そして活力13、これは食のブランドですから、出口をどうするんだというふうなことで整理されている部分でいいんじゃないかなというふうに思います。

・　また、そういう中で少し、具体的な中身としてこれはいいなと思いますのは、まず活力11でございますけども、多様な園芸産地の育成、現在、知事のご配慮によりまして１億円産地づくりをやっておるわけでございますが、このまま行きますと恐らく、先般も申し上げましたけれども、どんどん温暖化が進み、また作物も違ってくるかと思うんで

す。

そういう中で、主穀作、米、麦、大豆はきちっとしておりますが、それにプラスするところをどうケアしていくかということでは、施設園芸というものもやっぱり遠からず考える余地があるんじゃないかなということを思いますし、あと１つは、薬都とやまと言っているんですが、何か農業分野でもお手伝いできないかなという部分が薬用作物でございます。長い目で見たときに、このあたりも１つの富山としてのインパクトが出てくるんじゃないかなという感じで見ております。

・　また、活力12の中で思いますのは、具体例として、ここにも後半で書いておりますが、環境に優しい農業、やっぱり富山は環境に優しい農業だなと言われるようなポジションを取れないものかなということでございまして、エコファーマーや有機農業者をどう育成していくかということにもつながってくるんじゃないかなというふうに思います。

・　また、活力13、食のブランドでございます。これは古くて新しい課題でございます。先ほど朝日さんからもございましたように、３月26日に知事のほうから、富が３つの「富富富」に決定いただきました。お米の名前は漢字で「富富富」でございますが、やはりおいしいものを食べた後というと、みんなほくそ笑むといいますか、「ふふふ」と言うと思うんです。これをお米以外にも何か展開できないものかなということを思うわけでございます。

そういう中で、この26ページを見ているわけでございますが、結構古いものもあるように感じるんです。このあたりをちょっとリニューアルして、さらにリフレッシュして再構築したらおもしろいんじゃないかなというふうな感じで捉えています。

全体としたらこのようなたてつけでいいんじゃないかなというふうに思っております。

【尾山委員】

・　活力15のところに書いてあるんですけれども、昨年はベニズワイガニを県のほうからブランド化ということでＰＲしていただいて、とってもありがたかったです。

５月いっぱいで漁は終わるんですけど、ベニズワイガニをとってきてもとってきても、おかげさまで売れるものですから、仲買さんのほうから、ベニズワイガニを養殖して育てて放流してもらえないかと言われたくらいに、仲買さんたちはそんな高いものばっかり欲しいんじゃなくて、中ぐらいなものをたくさん買ってたくさん売りたいなというような、そういう感じだったものですから、何かそういうことができないか水産試験場の人に相談してくれと言われたくらいに、今年はおかげさまでベニズワイガニをたくさんとってきて売らせていただきました。とっても皆さん喜んでおられました。

・　それから、クロマグロの資源管理なんですけれども、クロマグロだけをとっている人たちなら、これだけ規制をかけられたから、じゃ、何日か休んでマグロをとらないようにしようということもできるんですけど、新湊の前浜だと、クロマグロが入ってくる網って定置網なんですね。そうすると、定置網の中に入っているクロマグロだけ網から出してほかの魚だけとってくるというわけにいかないんですね。

ですから、頭からもう、クロマグロはこれ以上、規制をかけられてこれだけのトン数とったんだからもうとったらだめですよと言われると、もう沖へ行けなくなっちゃうんです。全然魚をとってこないで休まなきゃならなくなるんですね。

だから、先般、定置網の人は、何回か皆さん交代で休みをとりながら、トン数が上が

った以上はとらないようにして頑張ってきたんですけど、考えてみると、海へ行って魚をとってきて、陸に持ってきて売って、初めていろんな維持管理のお金やら従業員に払うお金なんかが入ってくるのに、頭から今日は魚をとりに行かないで一つもなくてゼロですとなると、従業員の給料や維持管理費も考えたりしたときに、ああ、これは何とか考えていかなきゃならないんじゃないかな、私たちだけが考えてできるようなことじゃないから、いろんな方たちに相談しながらこれも解決していかなきゃならない問題じゃないかなと思いました。

最近、いろんなところから、外国に輸出するような魚を分けてもらえないかという話がたくさん来るんですね。輸出業にいろんな方たちがかかわられて、富山県の魚はおいしいから輸出したほうがいいとか言われるんですけど、輸出するだけのものがあればいいですけど、富山県、揚がってきた魚を見ると、そんな輸出するほどたくさんあるように思えないんですね。

この前も、ホタルイカの観光船のことでも、これは滑川市だけの問題じゃなくて、ホタルイカがとれる時期に、富山湾のホタルイカとして、兵庫なんかでとれるホタルイカと全然違うんですね。ですから、やっぱり富山湾の観光、ホタルイカの観光船、やっぱり私はそういうふうに今まで考えていたものですから、滑川さんができないと言われたときに、何か相談してくれれば、漁業者でいろいろ相談しながら、やっぱり皆さんからいろんな心配をいただいておりましたものですから、いろんなことを考えながら、また行政にもご相談しながらすぐやっていければよかったんですけど、少したってからやりますということで始められたんですけど、ホタルイカがいたりいなかったりって、とても苦労していらっしゃるみたいですけど、これからやっぱり何かそういうことがあったときに、みんなで相談しながら、富山県の漁業をもっともっと、今せっかく知事さんのおかげで富山県の魚が１位といって言っていただいたんですから、これを下に下げないように、私たち漁業者が一生懸命頑張って、そして皆さんのお力をいただきながら、どうすればこれを維持していけるか、そしてみんなに喜んでいただけるか、そして新鮮でおいしいものをみんなが喜んで食べてもらえるような漁業でありたいかなと思って頑張っておりますので、どうぞ皆様、またこれからもよろしくお願いいたします。

【山本専門委員】

・　こちらの新総合計画政策骨子を拝見させていただいて、非常に全体的にまとまっているなという印象です。

今のは農林水産業というところだったんですけれども、全体にかかわるところではないかなと思っておりまして、１つは、プロモーションを強化するというのがやはり一番大切なところではないかなと。

今やはり、個人の方の情報発信力、皆さんがネットにアクセスできるというような状況が徐々に広まっておりまして、やはりインパクトのある富山の何か情報を発信できるもの、これが全ての産業の振興にも食の輸出にも、あと観光客の誘致にもつながるのではないかなと思っております。

私どもも富山県のものを海外に輸出するということで、中小企業様を中心に支援させていただいているわけなんですけれども、やはり今、以前よりだんだん難しくなってきているなというのが正直なところでございます。

例えば、活力７でデザイン力を高めた伝統工芸品とクリエイティブ産業とあるんです

けれども、例えばクリエイティブ産業のアニメコンテンツを生かしたデザイン力の発信だとか、そういった意味でのコラボというのも必要になってくるのではないかなというふうに考えております。

あと、海外でプロモーションするときに、やはり富山のイメージというんですかね、私はやはり雨晴海岸から見る立山連峰というのは世界にもまれに見る絶景と思っているんですけれども、何かイメージを残したいというのがございます。

例えば外国の企業様に富山にお越しいただいて商談会をします。通常、ホテルの会議室の中で朝から晩まで缶詰めで、それで母国へ帰る。すると、やっぱり富山のイメージというのは何も残らないというふうに考えておりまして、例えば我々であれば、昨年であれば、お隣の県ですけれども、お隣の県での商談会の後に富山の企業視察ということでこちらの企業にお越しいただいたり、あと、今高岡でやっている伝統品の商談会には必ず前後で企業様の製造現場もしくは製造体験というようなものをして、やっぱり富山というものを知ってもらって帰っていただくということが非常に大切かなと思っております。

今申し上げたように、やはり情報の発信というのが非常に大切かなと考えております。

【髙木部会長】

それでは、ちょっと中間ですが、知事のコメントをお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

【石井知事】

大変それぞれ貴重なご意見、ありがとうございました。

最初、庵さんからお話がありましたけれども、ぜひビジネスマッチングとか販路開拓とかの支援については産学官金という時代ですから、よろしくお願いしたいと思います。

それから、大谷さんから、中小企業の事業承継が課題であるというお話がありました。確かにそのとおりだと思います。これは国のレベルでも、税制の面で中小企業の事業承継をしやすくしたり、いろんな工夫もあるんですけれども、こうした点については、富山県も、これは経産省からの委託を受けたような形で、「富山県事業引継ぎ支援センター」というのを設けたりしておりますので、この総合計画の中にももう少しそうした点も位置づけをして、また、計画に書くだけじゃなくて実効性のあることを努力していきたいなと思います。

それから、ものづくり基盤の裾野を広げて強化すべきじゃないかというお話でしたが、こういった点は、ＹＫＫＡＰさんもＲ＆Ｄセンターをつくっていただいたり、また、日本カーバイド工業さんも滑川に新研究開発センター、全国４カ所に分散していた研究施設を集約してもらうとか、いろんないい動きが出ておりますが、かねてからおっしゃっているリーディングカンパニーといいますか、海外や全国各地から受注された、そうした企業を、周辺の関連産業がしっかり、１次サプライヤー、２次サプライヤーとして活躍できるように、そしてお金が地域で循環するような仕組みをつくっていきたい。それには、もちろんリーディングカンパニー側の配慮もお願いしたいんですけれども、１次サプライヤー、２次サプライヤーになる企業がもっと努力しなくちゃいけないという面もありますので、これはしっかりやっていきたいと思います。

それから、杉野さんの言われたシリコンバレーを一つ参考にというお話、なかなかあそ

こまで一気には難しいんですが、ちょっと髙木さんのお話とも絡みますけれども、今、地方大学をいかに活性化するか、振興を図るか、それと若者の雇用、特に地方は非常に若者が減ってきていますからどうするかという話を、国の内閣官房で有識者会議を開いて議論していただいているんですけれども、その場で私がお願いしているのは、あらゆるものを各地方で全てそろえるというのは難しいんですが、例えば富山県でいえば薬あるいはアルミ、デザイン、こういった点については、産業界と私ども行政と、あるいは富山大学や県立大学、そういったところで、全国でも相当まれなくらい、いろんな集積があり実力があって、これからの展望もある。そういったところを重点にして国が支援するというふうにしてほしいとお願いしていまして、地方大学といっても全国で700から800ありますから、それを延べ単でどれもこれも応援するというのはとても国の財政事情からして無理ですから、そういったような提案もして、だんだん理解が深まってきているなと思います。

そうした国の応援もいただきながら、富山県がますます地方創生のフロントランナーとして、そういう面で、今、杉野さんや髙木部会長が言われたようなことも踏まえたような展望を持って進めていきたいなと思っております。

それから、町野さんのお話に出た、ナノファイバーと航空機はそれなりにいいんだけれども、ロボットのほうがまだまだ課題が多いという話があって、実は私はそれを非常に痛感していまして、何とかならないかと。実は予算はつけてあって、それなりに議論はしてもらっているんですが、何か次の飛躍につながる話が出てこないんですね。まことにもどかしいんですけども、おっしゃるご指摘はごもっともですので、これまたよく関係方面とも相談しながら取り組んでいきたいと思います。

また、機械要素技術展については、これは本当に町野委員さんや大谷委員さんを含めて、関係の皆さん、経営者の皆さんのご尽力に感謝申し上げたいと思います。こうした方向を県としてもしっかりお支えをして、日本の地方のこうしたブースとしてはまさにトップだというふうに言ってくださる方もいらっしゃいましたし、ぜひさらにそうした方向を充実していきたいと思います。

それから、宮越さんのほうから、労働者のスキルアップをもっと充実強化すべきといったようなお話や、海外への市場開拓とかといったようなお話もありました。こうした点も努力してまいります。

それから、農業についてそれぞれご意見がございましたけれども、「富富富」についてはおかげさまで皆さんから好意的なお話をいただけてありがたいと思います。これは、１万近い応募の中で、この案は１つだけだったので、正直ちょっと迷った点もあるんですけども、おかげで大変皆さんに好意的にお受けとめいただいて、これのいいところは、先ほど朝日さんや伊藤さんもおっしゃったとおりなんですが、お米を食べたときのにっこりした満足感をあらわしているということももちろんありますが、ほかにもいろんないい点があるのと、ある意味では、シンプルな表現ですから、これをベースにして、いろんなサブタイトルをつけて打ち出すというやり方もできるんですね。

ですから、まず「富富富」のお米そのものをしっかりアピールして、そのために例えば栽培単位もしっかりする。それから、栽培する農家も登録制にして、きちんとそれができる人にまずはやってもらうというふうにスタートしていきたいと思うんですが、これのブランド力が高まれば高まるほど、お米以外のそれなりの評価されるものとうまくセットにして、一体的に売り出していくということも可能になっていくんじゃないかと思いますので、これまたよくご相談していきたいと思います。

ただ、肝心の「富富富」をうまく育てませんとだめになっちゃいますので、そこは努力していきたいと思います。

あと、ベニズワイガニはさらに努力してまいりますし、クロマグロの話が出ました。これはお話のような問題があるので、特に定置網は、言うなれば、このお魚は入っちゃいかん、これは入ってくれというわけにいかないものですから、これは実は今、水産庁、農林水産省、この間も皆さんにお願いをしてきましたら、例えば、どうしてもクロマグロがあるシーズンに入ったら、その分はまき網の皆さんで調整してもらうとか、そのかわり定置網とまき網の皆さんのある種の協力関係を何らかの形で担保するとか、いろいろ今議論しておりますので、またご支援とご協力をお願いしたいと思います。

あと、プロモーションにもっと大いに力を入れるべきだというのは山本さんのおっしゃるとおりでありまして、また頑張ってまいりたいなと思います。特にデザイン力というのは、私も最初は、五、六年前までは、いや、我が富山県は結構実力があるんだと思いながらも、東京なんかに行ってどこまで胸が張れるか若干不安な面もあったんですが、そこに能作さんもおられますけれども、アメリカやミラノとかいろんなところに行ってみて、これは富山県のデザイン力、工芸とかいろんなものは、もう十分国際的に通用するしアピールできるという自信を持ちました。これは産業界、また関係のデザイナーさんとかいろんな職人さんとかと力を合わせて頑張っていきたいと、こういうふうに思っております。

【髙木部会長】

それでは引き続き、３「環日本海・アジア新時代に向けた陸・海・空の交通基盤の強化」につきましてご意見を賜りたいと思います。

【石澤委員】

・　立場上、活力１から11の分野だと思いますけども、小規模企業について少し申し上げたいと思います。

今回の県の新しい総合計画の策定におきまして、県におきましては、小規模企業振興に向けて、国の「小規模企業振興基本法」、また、県の「富山県中小企業の振興と人材の育成、小規模企業の持続的な発展の促進等に関する基本条例」に基づきまして、さまざまな支援策を講じていただいておりますことに感謝を申し上げます。

また、商工会の立場から申し上げますと、小規模企業の活性化あるいは持続可能政策につきましては、活力６の中に盛られておりますけれども、「とやま中小企業チャレンジファンド」を活用して、新製品の開発支援あるいは販路開拓、人材育成等について、今、小規模企業が置かれております厳しい環境を踏まえて対策を講じていただいております。また、活力８の中にも盛られておりますけれども、魅力ある商店街振興あるいは商業・サービス業の振興等にも数多くの施策が講じられております。大変心強く思っておるわけであります。

しかし、この両分野に共通することでありますけれども、小規模企業にとりましては、これから10年間というのは、さらに人手不足と後継者問題が深刻な問題となってまいります。したがいまして、県におかれましては、一層人材の確保、後継者対策に力を入れていただきたいと思っております。

・　もう１つつけ加えさせていただきますが、農商工連携についてであります。

実は、前の森山農水大臣に申し入れまして懇談をいたしましたときに、農林水産省か

ら補助金をいただきました。これは、60年の商工会の歴史の中で、農林水産省から商工会が補助金をもらうというのは初めてでありまして、それほど国も農商工連携には力を入れていることだろうと思いますが、せっかくそういう補助金をつくっていただいたのに、富山県ではそれを受け入れることができませんでした。それは我々にも実は責任がありまして、その体制づくり、受け皿が十分でなかったからであろうと反省をしておるわけであります。

その後、県におかれましても、農商工連携ファンドを通じて３分の２補助金で農商工連携を進めておられますが、必ずしもこれが十分に活用されていない。全国的にはかなり進んでいる県もございます。

そんなこともありまして、隣の伊藤会長と先日、商工会と農協中央会の会長、専務、常務が会合いたしまして、ひとつせっかくの国、県の支援があるんだから、できる分を具体的にやろうと。実は一番進んでおりますのは鹿児島県でありますので、これを参考にしながら本腰を入れてやろうということになりました。

したがいまして、県といたしましても、一緒になって農商工連携の一層の推進をお願いいたしたい。

【松田専門委員】

・　私のほうから、観光についてのお話をちょっとさせていただきたいと思います。

最近、インバウンドが非常に注目されておりますけど、今日の新聞にも載っていましたけど、数が売れるということの１つは、従来の団体旅行から個人旅行に大きく変わりつつあります。これは、海外の東南アジア等も含めてそうだと思います。富山の駅前へ行きますと、個人のお客さんや外国人の方が、どこかにレストランはないかとか、ぶらぶらしておられるのをよく見かけると思いますが、団体旅行から個人旅行に切りかわるためのもてなしのことを我々も真剣に考えていかなければいけないなというふうに思っております。空港も含め、外国人観光客が気楽に相談できるような場所も設置しなければいけないんじゃないかなというふうにも思っております。また、インターネット等の情報等が非常に大事になっておりますので、そういったこともどんどんと進めていきたいなというふうに思っております。

・　航空機に関しましては、全日空さんが今４便で一生懸命頑張っておられますが、富山－羽田、羽田から世界へあるいは日本各地へ行くというのをもっと消費者、お客さんに浸透させたいなというふうに思っておりますし、国際線に関しましては、例えば観光客を富山だけではなく隣県、１つの例を言いますと、例えば長野県というのはオーストラリアからの観光客が非常に多い。これが成田からバスで来ているというのがこの前テレビでもやっていましたけれど、非常に多いんですね。

身近に富山空港というのがありますので、例えばチャイナエアラインはオーストラリアの定期便が飛んでいますので、それを経由して富山から長野のほうと連携したのをやれば搭乗率の向上等にもどんどん広がっていくのではなかろうかなというふうに思います。

あと、ＬＣＣにつきましては、引き続きいろんな方面に声をかけてどんどん増やしていただきたいのと、あと、富山の場合、西側、日本国内、沖縄、福岡、そちらのほうとの交流というのは、定期便の航空路線、新幹線もまだ通っていませんし、そういった点でちょっと不自由な点がありますので、福岡便とか新規のことも考えてやっていただき

たいなというふうに思います。

【中井委員】

・　皆さん、新聞でご存知だと思いますが、富山県は医薬品の生産額が日本で１位になりました。これは業界、それからまた県のご指導、それからいろんな関係者の努力の結果であるというふうに思っております。

　と同時に、石井知事さんは１兆円を目指してやるという業界に対しての要望があるわけでございますが、これも近い将来、１兆円産業になるのではないかというふうに思います。

　一番大きい問題は、医薬品の生産は日本一かもわかりませんが、最近の医薬品というのは非常に難しくて、例えば当社においては、原料は１キロ１億円なんですね。この１億円の原料を使って生産しなきゃいけない。これには特殊なアルミのフィルムですとか、特殊な機械が要るんですね。それから、容器もあるんですけど、この辺を、富山県と産学官金でベクトルを同じにしてそういう産業も育成していかないと、この１兆円にプラスされる数千億という産業が県外に出ていっているんじゃどうしようもない。現在はもう大体県外からの輸入でございますので、この辺のアルミの箔、それからまたプラスチックの容器をいろんな意味での開発をされると、大きな産業になるのではないかと。

　本体の医薬品については、もうこれからのプログラムの中でどんどん進んでいきますから大きな産業になると思いますけど、周辺産業の開発といいますか、その辺をきっちりご支援していただければ非常に助かるのではないかというふうに思います。

【川村委員】

・　活力１の中で、ＩｏＴ、それからＡＩの活用という、これは生産性を上げるという面ですが、人手不足克服のためという視点からだけじゃなくて、先ほど髙木部会長も言いましたけど、この間、日本経済新聞とイギリスのフィナンシャル・タイムズとの共同調査研究の中で、約2,000種類の業種のうち、全体的に３割が、先進国だと思うんだけど、日本の場合は５割が将来ロボットに取ってかわられるという結果が出ているということです。日本の場合は、単純作業をやっている人が多いからだと。

　いずれにしても、ＩｏＴの活用はＡＩを活用ということで、かなり生産性の問題もあると。人手不足というのはもちろん解消して、ロボットに取られて、ロボットのかわりになるような人材というか、そういうものが足りなくなってくるということは、この活力10にある雇用の確保、こういうものについても、ロボットに取られてしまって雇用そのものがなくなるというようなことを想定して、その中で出ているのは、いわゆる意思決定だとか「そうぞう」、「そうぞう」でも両方あるんですけど、他の政策に書いてありますけど、クリエイティブのもの、それから創造するものだとか、こういうものについてはロボットは苦手である。芸術的なものとか、そういうクリエイティブなもの。だから、そういう面では、雇用の確保も含めてですが、活力７のものとか、それから、やっぱりバイオ関係も含めた、これも創薬とか何かを含めて、こういうようなところに力点を置いて、いっぱいやることはあるんですけれども、何かそういう方向性で行かなければならないのかなと。

　ということは、やはりソフト的なもの、心の問題とか観光人材とか、そういうようなこともみんなロボットではなかなかできないはずですから、そういうような方向性を持

って、テーマにいっぱい出ていますけど、いろいろ網羅されています。でも、この中で10年先を見るということになると、優先順位とか何かをつけながら進めていくというのが大事なのかなと。

そうすると、これは教育の問題も含まれてくると思うんですね。東ロボくんプロジェクトというのがあるんですね。それでいくと、ロボット、いわゆるＡＩで東大を受験、合格するかしないか。今のところ、計算だとか知識というのはもう合格するんだそうですよ。だめなのは、やっぱり文章を読んでの理解力とか、想像力みたいなものも含めるんだけど、そういうものがどうしてもまだまだ足りない。だから、そういう意味では教育ということも含めて、将来のそういうことから言うと、そういうところに視点を置いた教育のあり方というのを、ただ詰め込み式の知識だけじゃなくて、こういう問題も提起されているわけですね。

それと同じように、こういう中でも、10年後くらいはロボットとかＩｏＴは急速に進んでいくと思いますから、それに取ってかわるような、そういう意味での人材育成というのがありますけど、そこの視点をしっかりと持って進めるべきだと思いますし、そういう面では、じゃ、どこに絞っていくかというと、今言った活力７だとか、それから活力２ですか、こういうようなところを優先順位にしてやっていくというのもいいのかなという思いでおります。

【小川委員】

・ 活力24のうるおいのあるまちづくりのところを読ませていただいておりましたけども、環水公園とか美術館とかあの辺の賑わい空間をいいものにしていこうということだというふうに思います。

県のこういうものをいつも見させていただきますと、環水公園とかそういうのが出てくるんですけども、実は毎日会社の前で見ております城址公園でありますとか、あるいは高岡の古城公園ですとか。城址公園は富山市の管轄だというふうに思いますけれども、ああいう広大なまちの真ん中にある立派な公園、これが市民の広場、県民の広場で、今そういう感じなんだろうなというふうに思っておりますけども、実は歴史公園といいますか、そういった側面も恐らくあるんだろうなというふうに思っている中で、あそこでよくお城をバックに写真を撮っている観光客がたくさんおいでますけども、実は富山市の郷土資料館の建物であって、60年ぐらいの歴史がそれなりにあるので登録文化財等にもなっておるというふうに聞いておりますけれども、この際、10年後というよりも100年後の、今建てれば100年たったらこうなるだろうということで言いますと、100年後の国宝づくりということもありなのかなと。

これは富山市だというふうにおっしゃればそれで終わりなんですけども、大きな夢をも描きながら、史実に基づいた、本当は富山城というのはこんな格好だったんだよという本物を復元していくような新しい目玉づくりといいましょうか、郷土資料館がだめとかいいとかという話じゃなくて、せっかくのああいう歴史空間を、ちょっと魅力あるものにという意味では、お金がどれぐらいかかるかは私はわかりませんけども、伝統技術の継承とかいろんな意味があるんだろうなというふうにも思いますし、古城公園にしても、すばらしい歴史空間でありますけれども、体育館や市民会館等、いろんな新しい建物が建っておりますけれども、本当にそれでいいのかということをもう一度お考えになられて。観光客を呼ぶことが全てじゃありませんけれども、せっかく訪れた人に、空前

のお城ブームということもありますので、本物の富山城ってこんなのだったんだよということで、500年前からの歴史を語っていけるような、そういった場所になるとすばらしいなというふうにいつも思っておるわけでありますけども、県の計画だといっても市のところに踏み込んだりしないものですので、こういうところになかなか出てこないんだろうというふうに理解をしておりますが、もののあれで調べますと、富山城は擬似城郭と出てまいりますので、擬似でいいのかなということをいつも思いますので、そういったことも大きな夢のある事業としてちょっとお考えになられたらいいかなというふうに常に思っておりますので、ご披露したいと思いました。

【政所専門委員】

・　細やかに策定されていると思いますが、その中で効果的に展開する上でのちょっと事業展開に触れさせていただきたいと思います。２点ほどございます。

活力の４と５に関連すると思いますが、私は仕事を通じて、今、地方に移住して、移住・定住に結びつくような戦略を展開するお仕事をさせていただいています。具体的にどういうことかというと、首都圏において起業塾ということで、首都圏にいる人を地方にというような形での起業ベンチャー塾というのをやらせてもらっています。

他県で申しわけないんですが、３年継続で高知県の起業塾をやらせていただいていますが、その中で、具体的に移住・定住の若い層が何を求めているかということがはっきりしてきたんですけど、やはり移住後の暮らしの質と教育の質というのが鍵になってきているなということを感じています。

そういう点で言いますと、富山は暮らしの質ということであれば住環境、食、さまざまな環境は、非常に冠たるものだと思いますし、あと、教育ということで言いますと、やはり若年層が移住した後に困るのが、お子さんの就学年齢になったときのそこからの費用が非常にかかるということになってきます。

このあたりの手だてが非常に重要で、先ほど地方大学の活性化というお話が出ましたけれども、県外だけでなく、他県の大学の単位も取れるような、もっと広く言えば、世界の大学と提携して、富山に住みながら教育を受けられる、このあたりの手だてはかなり国もサポートしていますので、実現できるのではないかなというふうに思います。

・　それから、起業塾で、実は移住ブームというのは確かに首都圏で起きています。漠然と集めますとかなり集まるんですが、その効果的な率というのは大変低いです。そのためにどういうふうにしているかといいますと、集める段階で私どもが徹底的にやっているのは、まず若い女性で、社会人で５年から15年の間の方、それから男性で10年から30年、その次にシニアの方、そして大学生という形で、大学の人たちは、可能性があるゼミに焦点を当てて、先生方から一本釣りしてもらって集めるということで、かなりテーマを持って人を集めてきています。そういうことで言いますと、かなり確率は高い成果が上がっているかなと。

これを通じて思うんですが、やっぱり富山県が首都圏でもう少し効果的に、起業塾で徹底的に経営とか創業、起業のノウハウだけでなくて、富山の環境を徹底的にＰＲすると。そういうターゲットを絞ったやり方をすれば、かなり確率が高いものになるんじゃないかと。ひいては、活力の４とか５につながっていくんじゃないかなと思います。

・　もう１つ、伝統工芸の産地プロデュースというのを長年やらせてもらっているんですが、実は今、日本の伝統工芸技術が世界の中でも注目されていまして、特にどういう分

野かというと、４大成長戦略分野というのがありまして、まず折り紙、これはロケットが宇宙空間で羽を広げる、イメージで言うとパンタグラムみたいなものですね。これはＮＡＳＡの研究と折り紙の研究とが結びついています。

それからあと組み木、これは森林資源の活用ということで、富山にあります組み木技術、木を組み上げていく、チップ状の細かいものも効果的に構造物にしていくというふうな細工。

それから、和紙は医薬関係に非常に密接で、和紙の繊維というのは人工皮膚とか人工臓器とかということの研究につながっています。

それから、からくり技術、これはもちろんわかりやすいんですが、ロボット技術。

４大成長戦略分野の４つが全部そろっているのが実は富山県なんですね。ですから、このあたりは、伝統工芸技術という範疇を超えて、世界が今非常に注目し、イタリアとかフランスでは国立大学の中に折り紙科というのができたぐらいですので、そういう意味での海外流出している状況でありますので、むしろ富山の、先ほどの「富富富」ではないんですけど、豊かなこういった伝統的なものを最先端にというようなことでの研究とか、ターゲットの絞り込みとか、人材の集め方というのができるんじゃないかなということで、古きを振り返ってみますと未来の産業に結びついているというようなことが、時代が富山に近づいてきていると実感しています。

【髙木部会長】

・　活力16から22について、あまりご意見がないので、ちょっと私から一、二点。

まず活力16でございますけれども、知事が会長さんになって新幹線の整備を一生懸命やっていただいています。

ここから先はいよいよ石川、福井、そして敦賀、京都、大阪の出番でございますので、何かそういう都道府県との連携を一層強化するというような項目を入れていただくとありがたいかなと。

私ども商工会議所はもう７商工会議所会議で、大変なラブコールが関西からありまして、金沢以東を全部東京に取られるんじゃないかという危機意識から、もう２年間で４回やっています。今度５月にまたやりまして、ＪＲ西日本の社長さんも出てこられましてやっておりますので、県のほうでも共同歩調で応援していただければと思っております。

・　それから、もう１点でございますが、活力17、書いてあることは書いてあるんですが、城端線と氷見線、それから高山線も書いてあるんですが、ここは相当危機意識を持って関係市町村とも一緒になって取り組みませんと、10年後は廃線という話も出てくると思います。そうなってから関係市町村が慌てるというのが今までのパターンでございますので、息の長い取り組みで何かもう少し書き込んでいただければありがたいかなと思っております。

【髙木部会長】

次は、「観光振興と魅力あるまちづくり」の政策23番から30番までにつきましてご意見を賜りたいと思います。

【能作専門委員】

・　産業観光、まさしく今週半ばからフルオープンして始める予定なんですが、この中で言うと活力28の観光人材の育成なんですね。

実は県外からもたくさん今予約をいただいているんですが、本当にここが問題でして、できれば県から派遣してほしいぐらいの感じもあるぐらいに人材がなかなかいない。社内的には産業観光部をつくりまして、一応６人の社員がこれに回る予定で、あと、学生アルバイトを使ってやるんですが、今の想定でいくと、とても足りないなという状況が出てきています。

ただ、先ほど梅田さんが言われたように、富山県って何ていいところなんだろうということを考える県民が増えると、これは非常に大事なことだと思っていて、観光振興と魅力あるまちづくりについては、どっちかというと、この富山県のいいところを県民に気づいてもらうための内向きな政策もあっていいのかなというふうに思いました。

だから、僕自身の理想というのは、うちの施設に来た県外の人を富山県民が案内してくれるなんていうのが一番理想じゃないかなというふうに今思っています。

あとは、バリアフリーというのはどこでもあるんですけども、一番大事なのは実は心のバリアフリーということも考えていまして、障害者に対してもそうだし、インバウンドに対してもそうなんですけど、心のバリアフリーを育てていきたいなというふうに思います。

・　あと、海外に向けては、以前もやっていましたが、戦略的なプロモーションというのをどんどん続けていっていただきたいというふうに思っていまして、岐阜県の高山がこれで非常に成功してたくさん来ているというのもありますので、ぜひここは続けていっていただきたいなというふうに思いました。

・　それともう１つ、実は新社屋にいろんな、例えば富山県の観光カードとか、富山県の形をしたテーブルにマッピングを映すということを今やっているんですけども、おととい、うちの社員の内覧をやったところ、子供たちが動くマッピングに飛びつくわけですね。これは大人が見てもそう驚かないんですが、子供たちがえらい喜ぶ。案外こういうのってすごい大事なことで、当然、子供たちが喜んでいる周りには大人がいっぱいついているわけですから、できれば富山県としても、子供たちが喜ぶものを何か設置できれば、より一層たくさんの人が集まってくるんじゃないかなというふうに思いました。

【川合専門委員】

・　観光ということと農林水産という関係で言いますと、やっぱり富山の自然というか環境は、まさしく森、里、川、海が１つになっているという、１つの循環型の環境の中でいろんな産業があるわけですけども、特に食の面でちょっと私、今、ナパバレー、あそこはワインとかああいうのになっていますけど、バレーという、お米ですとサクラメントバレーですね、富山だとライフフィールドになりますけれども、幾つかそういうような食のバレーをつくるというような１つ、これくらい伝統的な食、あるいはいろんな山から行きますとジビエあるいは山菜、これなんか高級食材ですから、そういうものをお米を中心としたライスフィールド、バレーで、いろんな食のいろんな、やはり観光というのは食と一体になりますので、富山の森、里、川、海を生かした１つのゾーンをつくって、例えば砺波地方であるとか、扇状地でありますと黒部川扇状地がありますけれども、ここに１つナパバレー的な発想で、酒屋さんもありますので、ワインでなくてでも、お米を使ったワインということで、そういうバレーというような形で食のバレーを10年

かけてつくれれば、その中にぜひおかき屋も入れていただきたいと思います。やりたいと思います。よろしくお願いします。

【玉沖専門委員】

・　この案についてなんですけれども、バランスもよくて、でもちゃんと個性も光っていてよいのではないかと拝見させていただきました。この中で２点意見を申し上げたいと思います。

　１点目が、46ページになりますが、活力23の「主な施策の項目と具体例」のところですが、デジタル面でのおもてなしということなんですけれども、もしかしたら１の２つ目の「受入環境の整備・支援」というところに包括されているのかなと拝見していたんですけれども、例えばおもてなしというと、相対の人のものをすごくイメージしやすいんですけれども、今どき、もうデジタル面もおもてなしの１つです。

　ＡＩの話も先ほどからすごくご意見に出されていましたが、例えばＷｉ－Ｆｉの整備、もう富山県、主立ったところに行くとＷｉ－Ｆｉは完璧だなと思っているんですけれども、Ｗｉ－Ｆｉの整備ですとか、あと、タクシーをＵｂｅｒタクシーのようにアプリ化してしまうとか、他県では観光客の方がＪＲバスで来られて、そこから安く移動したいということで、バスをよく利用されているのが非常にデータで上がってきています。

　けれども、バスはわかりづらいので、県によっては外国人向けのパスポートみたいなものをつくっておられますけれども、もうそういったものまで例えばアプリ化してしまうですとか、あとは、活力28の人材育成のところで、タクシー乗務員の方の人材育成というのがありますが、もうこれもデジタルの力をかりて、ある地域によっては、やっぱり運転手さんによって個性が違われますので、おもてなしの基準を統一化するというのが非常に難しく、そこの最低限を担保するためにもタブレットを配っていらっしゃって、説明が難しいものはタブレットをお渡しされたりとか、例えば晴れの日は絶景なんだけど、きょうは雨でしたというときには晴れの日の光景を見せるですとか、あと、冬に来られた方には夏の光景をタブレットで見せるですとか、そういったことでリピーターにつなげていったり、サービスのよい悪いみたいなところの標準化を図る工夫にタブレットを使われていたりもします。

　なので、この活力23のところで、インターネットなのかデジタルなのかみたいな表現がずばっと入ったら、よりエッジが立つきらりと光るものになるなと思って拝見させていただきました。ＰＲで発信するというところには随所に「インターネットを活用して」という表記がございましたが、着地された方の受け入れ環境の整備というところについてデジタルの言葉がなかったので、もしお差し支えなければ入れられてはどうかというのが１つです。

・　２点目なんですが、少し戻って活力９のところですが、18ページに当たります。私はコンサルタント会社なんですけども、過疎地の輸出ということをかなえたくて、自社で自社商品をつくって今輸出もやっております。

　クールジャパンの委員などアドバイザーのほうをさせていただいておりますので、少し輸出についてなんですけれども、これも18ページの「主な施策の項目と具体例」の２に当たる「海外ビジネスにおけるサポートの充実」というところで包括されているお話だと推察しておりますが、特に、私もそうなんですけれども、中小事業者が輸出に取り組む。今やっているようにボーダーレスで、中小事業者やロットが少ないものでもいく

らでも売り方があります。ただ、そのいくらでも売り方があるノウハウに行き着かないところで皆さんいろいろと悩んでおられると思いますが、そういった商流を学ぶ機会というのがぜひここの中に含まれていたらいいのになと思って拝見しておりました。

例えばですが、関税率の問題、今、自由貿易みたいなこともありますので、必ずしもかつての関税率ではないところもありますし、あとＥＣサイトも非常に充実しております。国によって、例えば中国などでは政府がＥＣサイトを運営しておられます。弊社の商品も間もなくそこに掲載をするんですけれども、あとは商標の問題、国によって許認可の届け出が必要なものが非常にかぶりますので、そういったようなことを学んだ上で、例えば海外の展示会に出席するみたいなステップになっていればいいなと思います。

もう国によっては日本ブースを設置してくださっているということもございますので、そういったことのご案内みたいなことも含めて、この２の「海外ビジネスにおけるサポートの充実」というところに含まれていればいいなと思っております。

【横井委員】

・　「観光振興と魅力あるまちづくり」についてですが、前回の会議の中で私は、県としてきらりと光る特徴を１つ持つべきだとお話しいたしました。「富山県と言えばこれっ」と誰でもわかる特徴で、この政策の中からおおむね10年の中で１つ決めるのはどうでしょうと意見させていただきました。

今回、この政策骨子案を読ませていただき、率直な意見を申し上げますと、全体としてもっと具体的にはっきりとした政策目標のほうがいいのではないかと感じました。

しっかり、いつまでに、どのように、具体的に進めていくには何が必要でと明記した上で目標を決めるほうがよいと思います。目標が曖昧だと実現できず終わってしまいます。そうなると、おおむね10年の中で「富山県と言えばこれっ」とわかる抜きん出た何か１つきらりと光る特徴は出ることもなく、大体平均点以上で終わってしまう気がします。

・　具体例として､骨子案の45ページからあるじゃらんの宿泊旅行調査の参考資料があり、それをもとに、現状と課題であったり基本方向、さらに政策目標等があります。ただ、本当に旅行者の満足度を調査して富山についてデータを収集し今後の参考資料とするのであれば、じゃらんだけではなく、空港や駅、ホテル、富山の観光地で一定期間アンケート調査し、生のデータ収集も行い結果を得るべきだと考えられます。

じゃらん調査では、富山は「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」４位、「総合的な満足度」８位とありますが、実際にデータ収集を行えば、シロエビがおいしかったから、ブリがよかったから４位とわかるでしょうし、ほかにも新しくできた美術館がすばらしかったから満足度８位など踏み込んだ意見を知ることができ、それをもとにさらに発展させ、魅力ある富山につなげることができるのではないでしょうか。

インターネットの一部のデータや一般的に思われる情報は一部の参考データにすぎず、それが全てはありません。もっと県民や一般の方々の目線で生の声を聞き、踏み込んで考えるべきだと思います。

県外の人に富山のよさをもっと知ってもらいたいのであれば、まず県民に広く認識してもらうべきです。富山県民もあまり知らないことを県外に発信しても成果は上がりません。何をするにしても、まずは県民からの意識が大切なのだと思います。

・　最近、富山県のお米の新品種の名前が「富富富」に決定したとありました。子供たち

もまねて「ふふふ」と笑っており、心に残る大変いいネーミングだと思いました。

福井、石川、新潟とそれぞれお米の名前が発表されていましたが、どこよりもインパクトがあり、すばらしいと感じました。ぜひそのお米を使って、「富富富なます寿司」など特産品ができれば、県としてきらりと光る特徴を１つ持つきっかけになるのではないかと感じました。

【渡邉専門委員】

・　展開目標４を中心に少しお話をさせていただきます。

全体を通じてちょっと感じますのが、これまでもいろいろお話が出ているんですが、プロモーション、情報発信とか、それは非常に大事なんですけども、それについての言及が非常にあちこちにあります。戦略的なプロモーションだとか戦略的な情報発信だとか、これまでのご発言にもあるんですけども、何を発信するかということで、富山の観光資源、観光施設について発信するんだと思うんですが、富山が持っている観光資源はもうすばらしいものがあるんだという前提に立っているのかもしれません。しかし、世界、全国各地、みんなが一生懸命頑張っていますので、それに追いついていかなきゃいけないと思うんですね。

ですので、この全体を通じて、観光資源に対するブラッシュアップなのかメンテナンスなのか、そこのところの表現はわかりませんが、それに対してもう少し何か政策があってもいいのかな。もちろんプロモーションは大事です。マーケティングの中にプロモーションがないとそれは売れませんから大事なんですけども、プロダクトのほうももう少し言及があってもいいのかな、政策があってもいいのかなというふうに思いました。

・　次に各論なんですが、活力23で、「海のあるスイスを目指して」。前回もちょっと申し上げたんですが、非常にこれはいいなと思います。私、実は誤解をしていたんですが、海のあるスイスを目指してというのは、内向きというか、県内の観光業者あるいは観光振興をする立場に対してのものかなと思ったんですね。

この政策目標の中にあるように、スイスというのは交通ネットワークが非常に観光客目線で整備されていて、それから体験メニューがいっぱいある。これはまさにスイスのあり方ですが、そういう意味でスイスを目指すというのはいいんですけども、今回これを拝見していますと、海のあるスイスのブランドイメージをつくっていくんですよね。そうして見ると、これは私の個人的な意見ですが、かつて旅行業者に属していまして、富山を売る身だったんですけども、海のある富山というのをどうやって売るかなって、個人的にはちょっと微妙なところがありますね。東洋のハワイとか東洋のベニスだとか、そんなのが世界にあちこちありますけれども、富山県を海のあるスイス、もちろん室堂から見る山岳の景色というのはスイスに共通するものがあります。匹敵します。それ以上かもしれませんが、今まで持っている、人々が持っている、あるいは旅行業者が持っている富山の売り方というところから見ると、ちょっとこれ、ワンステップ先に行っちゃったかなというような感じがしないでもありません。個人的な意見ですが、というような感じがします。

特に後半のほうで、食のキーコンテンツというのがあります。そういうところと海のあるスイスというところの整合性というのもちょっと考えたほうがいいかなというふうに思います。

ただ、これはいろいろご検討の上でこうなっていると思いますので、これはこのまま

でお進めいただくのがいいかなというふうには思います。

・　それから、「世界で最も美しい富山湾」、活力25なんですけど、これも非常に利用するべきブランドですね。これは私が不勉強なのかもしれませんけども、旅行というのは、時間と場所、お客様にここに行ってこれを見なさい、あるいは体験しなさい、あるいはお金を使いなさい、こういうことを言うのが旅行ですよね。

　だと思うんですが、具体的に世界で最も美しい富山湾はここに行きなさいというのがあまりはっきりしないような気がします。もちろん海王丸パークのあそこなのかもしれません。ですので、ここに行きなさいよ、ここが世界で最も美しい富山湾が見られる場所なんですよというような整備が必要かなというふうに、これは各論ですが、ちょっと思いました。

・　それから、次の活力26、「立山・黒部」の世界のブランド化のところなんですが、この中で２つあるんですが、１つが、アルペンルートとかそういった観光施設を中心になんですが、ここにも戦略的な国際観光の推進とか出ているんですが、どちらかというと、私の印象ですけども、富山県のアルペンルートしかり、それから黒部峡谷しかりなんですけども、まだまだ20世紀の団体を中心とした動線の名残があるなというふうに思います。

　その辺、確かに冒頭のスイスと随分違うなと思うんですが、ですので、いわゆるアルペンルートならアルペンルート、トロッコならトロッコで、個人のお客様が洗練した気持ちで移動できるようにとか、そういうような、要はもう少し上質化をするべきかなと。上質に、ハイグレードにするような、これも冒頭で申し上げた観光資源、観光施設に関することなんですが、サイネージであったり動線であったり、そんなところが必要かと思います。

・　同じページの52ページ、下のユニークベニューの話なんですけど、これは非常に大事だと思います。すぐあしたお金になるというものではないと思うんですが、特にこの２つ目の瑞龍寺や五箇山、こういったものをユニークベニューにしてＭＩＣＥを水準にしていこうという考えなんですが、地道なご努力だと思いますけど、これは大変重要なことかと思います。

・　先ほどもお話がありましたけど、活力28、観光人材のところですが、富山県は47都道府県の中で一番長けているかなというような気がします。すごくご努力をされていらっしゃいます。

　この中で、先ほどもちょっとお話がありましたが、ガイドさんのお話あるいはタクシーの乗務員さんのお話が出てきます。ただ、観光でお客様が接する人材というのはこの２つに限りません。当然にも、交通機関のスタッフであったり、リテール、物産のそういった方々とも接するわけですね。ですので、そういった分野の人材にもこういった人づくりの施策が及ぶようにお考えいただく、こういったものも入れてもいいかなというふうに思います。

・　そして最後に２つ、ちょっとほかの分野に口を出しちゃいますけども、活力15のさかなのブランドのところですが、前回も申し上げましたけれども、ブランド化というのは、国際的な販路拡大というのが出ていますが、インバウンドで来るお客様に対して富山の魚、多少出ていますけど、もっともっと強烈に売り込んでいいのかなと。富山においしいお魚を食べに来なさいというのを英語で、中国語で発信していくという作業がさらに進められていいのかなと思います。

・　それから最後に、活力20、伏木富山港の話です。前回もクルーズの話、これは重要で、個人的には富山というヒンターランドはクルーズとして絶対売れるなというふうに思っているんですが、そういうことが書いてありますけども、さらにこれを進めていただいて、インセンティブだとか、場合によっては規制緩和だとか、そんなことをやって、船会社が来てメリットがある、それから乗客の方にもメリットがあるんだというようなことを継続的に体験してもらうような、ちょっと大変だと思うんですけど、こんなところも引き続き書き込んでいっていただければなというふうに思います。

【髙木部会長】
まだまだ意見もおありかと思いますが、委員の皆様には貴重なご意見ありがとうございました。
それでは結びに、石井知事からコメントをお願いしたいと思います。

【石井知事】
大変多岐にわたる、それぞれ貴重なご意見をいただきました。
最初に、石澤委員さんが言われた農商工連携はまさに大事なことなので、まだまだ不十分だというお話もありましたが、多分全国的に見るとかなりやっているほうかなと思うんですが、例えばこの農商工連携を含めた６次産業化は、平成26年度で販売金額が100億円を突破しました。以前は80億とかせいぜい90億ぐらいでしたから比較的頑張っているほうかと思いますが、しかし、さっき一番頑張っているのは九州の南の県だというお話もありましたので、また現地にも人をやって、いろいろ勉強して努力をしてまいりたいと思います。
それから、富山空港も大いに活用して、チャイナエアラインの話も出ましたし、また、福岡便なども含めて九州方面とか、いろんなアプローチは努力していきたいと思います。
それから、中井さんの言われた医薬品生産額１兆円、ぜひひとつ一緒に頑張りたいと思いますけれども、あわせて、周辺産業、関連産業の育成というのが大事で、容器とか包装とかいろんなものがございますので、これはかねてご指摘もいただいていることですから、ぜひこうした分野は関係方面にも呼びかけてしっかり取り組んでまいります。
それから、川村さんが言われたＩｏＴ、ＡＩなどで、さっき髙木部会長もおっしゃいましたけれども、非常に多くの仕事が人間がいなくてもできるという時代になりますから、人間がロボットよりすぐれている分野にいかに担い手としてやれるかと。おっしゃるように、教育のあり方もあると思います。そんな気持ちも含めて、クリエイティブ産業とかデザインの重視とか、いろんなことが書いてありますけれども、努力してまいります。
また、古城公園などの話もございました。こうした点はそれぞれ、城址公園も含めて、行政の守備範囲みたいなこともありますけれども、ぜひ県内のいろんな地域がより魅力ある場所になるということが大事ですから、心がけてまいります。
また、政所さんのほうから、お子さんが就学年齢になってからの教育費がかかる。移住後の暮らしの質や教育の質が大事だというお話がありました。そういった意味では、富山県は相当胸を張れるほうではないかと思いますけれども、今もおかげさまで、富山県の移住は、かつて200人ぐらいだったのが、一昨年が462人、昨年は560人を超すようになりまして、20歳代、30歳代の人がそのうちの７割なんですね。ですから、政所さんが言われた女性なら社会人になって５年から15年、男性は10年から30年と言われたと思いますが、その幅の中に結構はまっておりまして、しっかりこれからもやっていきたいと思います。

それから、4大成長分野というお話が出ましたが、これはよく勉強させていただきたい。ただ、お話のように、折り紙とか組み木とか和紙、からくり技術、それぞれ富山県が得意分野の面もありますので努力してまいります。

それから、北陸新幹線については、敦賀以西の問題ではありますけれども、富山県としても引き続き、とにかく私はやっぱり京都、大阪までつながって、かつ東海道新幹線とループ化されることでこの事業が完成するんだと思っておりますから、おっしゃることは十分肝に銘じて、実は私のほうも、もちろん、京都、大阪等の行政のトップの皆さんとか、また経済界のいろんな方ともかねていろいろおつき合いもしてきておりまして、さらに努力してまいります。

それから、城端線、氷見線の話は、これは非常にご指摘については、ご懸念はよくわかるんですけど、いろんなことをやっているんですが、悩みは、行政とか市長さんとか経済界のリーダーとかは一生懸命言っていただくんですが、なかなかいろんなことをやっても、例えば確か4往復ぐらい試験的に増やしているんですね、2年ほど。関係の方もおられますが、なかなか地元の人が乗ってくれないんですね、結局。そこをどうするかということが課題でありまして、また努力してまいります。

それから、能作さんはすばらしい新社屋をつくられて私も感動しましたが、本当のことを言って、確かに、産業観光部で取り組まれていることは我々行政が担ってもいいような分野までやっていただいて、その点も感動したんですけれども、またいろいろ実績を聞かせていただいて、ちょうどお近くに総合デザインセンターもさらに拡充しますので、うまく連携するということと、何かそこのところを、いくら能作さんがすばらしい会社でも、そこまで全部ご自身の費用でやっていただくのもどうかという部分もひょっとしたらあるかもしれません。よくご相談してまいりたいと思います。

それから、ナパバレーというお話もありました。「富富富」の問題も含めて、富山の農産物、あるいはそうしたものの加工品の魅力をぜひしっかりアピールして、またそういった拠点みたいなことを考えていくのもおもしろいと思います。

それから、玉沖さんが言われたいろんなデジタル化の話、タブレットの話、本当に興味深く、ありがたく拝聴しました。

それから、タクシードライバーの話も出ましたけれども、多分全国的に見ると、すごいタクシードライバーの研修とか、熱心なドライバーさんにはステッカーを差し上げたり表彰したりやっているんですけれども、なかなか厳しいご意見があちこちからありまして、私も業界の責任ある立場の方にも直接お話しするんですけれども、タクシードライバーさんといってもいろんな方々がおられまして、先ほどのようなご提案をうまく生かせるにはどうしたらいいか、またよく考えてみたいと思います。

それから、じゃらんのような一般的調査だけではなくてというお話もありました。そういう点もあると思うんですけれども、これは、全国比較とか過去10年、20年前とどう比較するかというと、こうした全国的な民間調査あるいは公共の調査にどうしても依存しなきゃいけない部分もあるんですけれども、いろいろ目標をつくったり何かするときは、それを補完的にまた各論の調査も必要に応じてやりまして、できるだけわかりやすい実効性あるものにしていきたいなと思っております。

一方で、とやま未来創生戦略ですと5年間ですから割合目標値を決めやすいんですが、10年というとかなり不確定要素が大きいものですから、これをどういうふうに考えていくかまたよく勉強いたしたいと思います。

それから、海のあるスイスは、結構インドなんかで、例えばインドの経団連みたいなところに２年前行ったんですが、２度目の訪問ですけれど、富山県に一度来てもらったインドの経団連のトップに近い方が、富山県というのはまるでスイスみたいに美しいといって皆さんＰＲしてくださる。私はうれしくなって調子に乗りまして、「大変うれしいんだけど、あえてつけ加えさせていただければ、富山県はそのスイスのような美しいところに海がついているんです」と言ったら、えらい受けたんですよね。

ただ、お話しのように、スイスは地域内交通もすごく整備されているとかいろんな意見がありますから、これは外向けに格好よく言うだけじゃなくて、内容もそれにふさわしいものにしていかなきゃいかんと思いますから、ご指摘は十分肝に銘じて努力していきたいと思います。

あと、お話しのように、立山・黒部もまだまだ団体旅行的な要素が強いというのは、もちろん一生懸命やっていらっしゃる民間企業の方もおられるので話しにくいという点もありますが、おっしゃる点もあると思います。

ですから、今、立山・黒部を本当の意味の世界ブランド化するにはどうしたらいいかということで、各論の有識者会議なんかも昨年からやってきておりますので、ただ議論するだけじゃなくてぜひ実行していきたいと、こういうふうに思っていますので、またご協力、ご支援をお願いしたいと思います。

いろいろまだほかにもあったと思いますが、よろしくお願いします。

【髙木部会長】

石井知事さん、ありがとうございました。

それでは、本日はこのあたりで会議を閉じたいと思います。ご協力ありがとうございました。